



水泳にみる学びの連続性

校長 齋藤 一裕

プールから響く子どもたちの歓声は、今も昔も変わらない学校の「夏の風物詩」ですが、近年、水泳を取り巻く環境は大きく変化しています。

ここ数年の猛暑により、夏休みの水泳教室は開催が困難になってきました。本校では、コロナ禍が落ち着いた３年前に水泳教室を再開しましたが、その年とその翌年は暑さ指数（WBGT）が連日「運動原則中止」の指標を上回り、プールに入ることはほとんどできませんでした。そこで昨年度は試行として、水泳教室をなくす代わりに水泳授業の期間を９月末まで延ばして実施しました。この取組は先生方の画期的な挑戦であり、９月後半であってもプールに快適に入れることを証明できました。しかし、昨年度は梅雨明けが早く、計画した水泳の授業は１学期中にほぼ実施できたため、結果として９月までプールを稼働させる必要性は薄いという状況もありました。相手が自然現象だけに、判断の難しさを痛感しています。

そのような経緯を踏まえ、今年度の実施期間は6月中旬から7月17日までとしました。



水泳は学習内容の系統性が子どもにとっても分かりやすく、見通しをもちやすい運動です。一人ひとりが自分に合っためあてをもち、練習方法を選び、友達と支え合いながら学習を進められるよう支援していきます。

左の表は、1 年生から 6 年生までの水泳の「学びの連続性」をまとめた学習過程の概要です。子どもたちが発達段階に応じた楽しい学びや主体的な学びを積み重ねていくことを大切にしています。各学年の詳細な単元計画を添えて学校ホームページに掲載しておりますので、是非、ご覧になってください。

常盤台小「学びのBASICプラン」をリニューアル！

4月の保護者会の際に「学びのBASICプラン・令和8年度版」をお示ししました（学校生活の手引きP3～6）。その後、加筆・修正を行いましたので、7月中にあらためて配付し、学校ホームページにも掲載いたします。

ここで「学びの BASIC プラン」について少しお話をさせてください。本プランの初版が発行されたのは平成 18 年度で、今から 20 年も前のことです。当時すでに、学びのサイクルを基にした課題解決型の授業を全校で展開していくことが示されており、本校の先輩方の先見の明、そして常に見据えて教育活動を行ってきた情熱には深く感服させられます。

そして、本プランは、子どもたちの学習規律や学習習慣の確立をめざす「スタンダード」として長く継承されてきました。

今回改訂した令和8年度版の大きな特徴は、本プランに関連付けて作成した「話し合い活動の手引き」や「家庭学習の手引き」、「思考ツール」などを2次元コードで繋ぎ、いつでも参照できるようにした点です。

先の水泳の話と同様ですが、基礎基本の定着を図るためには、日々の積み重ねがとても大切です。すべての学年・学級で本プランを生かした教育活動に展開し、今年度の重点目標である「『探究』と『基礎基本』の両輪で深い学びを！」の実現をめざします。

